

講義名	国際物流論		
担当教員	李 志明		
開講期・曜日・時限	後期 金曜日 3時限	授業形態	講義
履修開始年次	2年生	単位数	2
主題と概要			
<p>物流とは、企業や私達が使うモノの流れである。そのモノは原材料から完成品までのすべてのモノであり、これらのモノが国際間で流れている。国際物流は、企業間の輸出入によって生じる。また、今の企業のマネジメントはグローバルに行われており、その分、直面する課題も多様である。この講義を通して、モノが国際間で流れる仕組みと実態を理解する。そして国際物流における課題を理解し、解決の提案ができるようにする。</p>			
到達目標			
<p>(1) 国際的に行われる物流の動向と実態が理解できる。 (2) ロジスティクスにおけるグローバル戦略の動向と問題点が理解できる。 (3) 海外の物流が理解でき、戦略立案に貢献する。</p>			
提出課題			
理解度確認のため、レスポンドで小テストを実施する（10回予定）。			
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック			
小テストの解説を授業中に行う。			
評価の基準			
小テスト5回（各10点、50点満点） + 期末テスト（50点満点） = 100点満点			
履修にあたっての注意・助言他			
教員はなるべく易しく説明するように努めるが、学生にも授業内容を理解しようとする能動的な態度が求められる。			

教科書				
.使用しない。				
プリント資料及び参考文献				
適宜配布する				
授業計画				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際物流論の紹介 2. 物流の概念と国際物流 3. 物流管理の発展と国際物流 4. 企業の国際化と国際物流 5. 国際貿易の仕組み 6. 国際貿易と国際物流 7. 国際物流とインフラストラクチャー 8. 世界における海上輸送動向 9. コンテナ輸送システム 10. 国際物流とコンテナ輸送 11. 空路の国際物流の理解 12. 国際航空物流の仕組みと動向 13. 複合・貫輸送システム 14. 国際物流における安全対策 15. まとめと国際物流の再考察 				
授業形態（アクティブ・ラーニング）				
ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク	オ：プレゼンテーション
カ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）				
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間				
この授業科目は2単位であるが、2単位に必要な学修総時間は90時間と定められている。内訳は授業で毎回90分、予習・復習で毎回4時間である。授業中に案内する次回の内容についてネットなどを利用して3時間予習する。そして1時間の復習をする。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連				
国際物流の仕組みを理解し、DPの「企業マネジメントに関する問題探索、課題提案に貢献できる」ようになる。また、グローバル企業のマネジメントにおいて必要な国際物流と国際貿易を理解することで、DPの「経営のグローバルな側面に関心を抱き、グローバルな課題に直面する組織で現状分析を通して、具体的な改善や解決の提案に貢献できる」ようになる。				
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述				
講義中に学生の意見を問う。また、レスポンドを利用して、考え方を共有し、質問や意見などを受け付ける。				
実務経験の有無及び活用				
実務経験あり。 物流データの分析と物流政策立案の支援の経験があり、民間企業や政府の考え方や仕事のやり方などを伝え、より現実感のある講義を提供する。				
備考				